

美容通じて元気な高齢化社会を

メイクセラピーshin. shin 酒造 志保社長

社会の高齢化が進む中、いつまでもおしゃれに気を配りたいと考える年配の女性が増えている。そんな思いに寄り添い、高齢者や障害者向けの化粧「メイクセラピー」を展開しているのが「メイクセラピーshin. shin(心身)」だ。各地でセミナーを開いたり、化粧関連の講座で講師を務めたりして、「美容を通じて元気な高齢化社会を」という理念の実践を呼びかけている。

阪神大震災の経験

社長の酒造志保さんは、小中学校で保健室の教諭などをしながら、趣味でメイクを習った。当初はメイクを本業にするつもりはなかったが、1995年の阪神大震災が大きな転機となった。

勤務先の小学校が避難所となり、被災者の世話にあたった。そのとき絶望した様子で横たわっていた女性を励まそうと、たまたま手元にあった口紅を塗ったという。塗り終えて女性に鏡を差し出すと、その表情が一気に華やいだ。

酒造さんは「メイクは外見を整えるだけでなく、気持ちにも作用すると分かった」と振り返る。



みき・しほ 兵庫女子短大を卒業後、兵庫県内の養護学校などに教諭として勤務し、2002年に退職。07年にメイクセラピーを手掛けるボランティア団体「shin. shin. フレンド倶楽部」を発足させた。10年に起業。12年に、同県芦屋市でエステサロン「芦屋隠れ家サロンshin. shin」を開設した。52歳。兵庫県豊岡市出身。

その後、週末や長期休暇を利用し、メイクセラピーについて本格的に勉強するようになった。勉強を通じて知り合った仲間と一緒に、高齢者施設でボランティア活動をする機会もあった。施設の利用者が喜ぶ顔を見て、「おしゃれをしたくても、なかなかできない人をメイクを通じて元気づけたい」と考えた。

初めはボランティア

40歳で勤め先の養護学校を退職。念願のメイクセラピーのボランティア活動を本格的に始めた。自治体などが主催する講座に講師として呼ばれることも多くなり、20人の仲間とボランティア団体「shin. shin フレンド倶楽部」を発足させた。

ニーズは高く、活動範囲が広がるにつれて、専門的な技量を備えた仲間を増やす必要性を痛感。専門的な活動に取り組める環境を整えるため、会社の立ち上げを決めた。

いまでは、メイクセラピストの養成スクール運営をはじめ、講師派遣、年配女性対象のエス

—趣味から起業したそうですね

「起業する際には、経営コンサルタントから『お金にならない』と忠告された。商品を作って、それを販売するなら分かりやすいが、メイクは無形のサービスだし、メイクセラピーの知名度は当時ほとんどなかった。以前は高齢者用施設の関係者からも『そんなに華美なものはいらない』と断られることが多かったが、今はまったく逆で、次から次へと依頼がくる。時代が変わったと感じている」

—ボランティア活動と仕事の相乗効果ですね

「ボランティア活動は、広告のような役割を果たしてくれている。訪問先の施設関係者が、自社のメイク講座に来てくれたり、ほかのメイク講座の講師として呼ばれたりする。ボランティア活動に参加した人が、より深く学ぼうと、自社が運営する養成スクールに通い始めることもある。大手理美容品メーカー、タカラベルモント(大阪府中央区)が手掛ける一般財団法人タカラ杉山社会福祉会の活動に協力しているが、信頼が高まって組織もしっかりとし、仕事面でも幅が広がった」

—シニア向けの美容とは

「メイクのほかにエステサービスも取り扱っている。最近人気なのは、唾液腺などを刺激するドライマウス対策のマッサージ。ドライマウスの症状では、声が出にくくなったり、味覚がおかしくなったりするが、困っている人が思いのほか多かった。これからはシニアをターゲットにサービスを増やしていきたい」

エステサロン運営、化粧品販売などを幅広く手掛ける。

10月中には「一般社団法人日本アピランスセラピー協会」を立ち上げ、さらなる普及を目指す。

酒造さんは「おしゃれは人を元気にする。元気な高齢者が増えると医療費の削減にもつながる。これからも明るい世の中をつくるお手伝いがしたい」と話している。(栗井裕美子)

■会社概要

▽本社—兵庫県芦屋市茶屋之町3—19CUR201

▽創業—2010年2月

▽資本金—500万円

▽従業員—4人(パート含む)

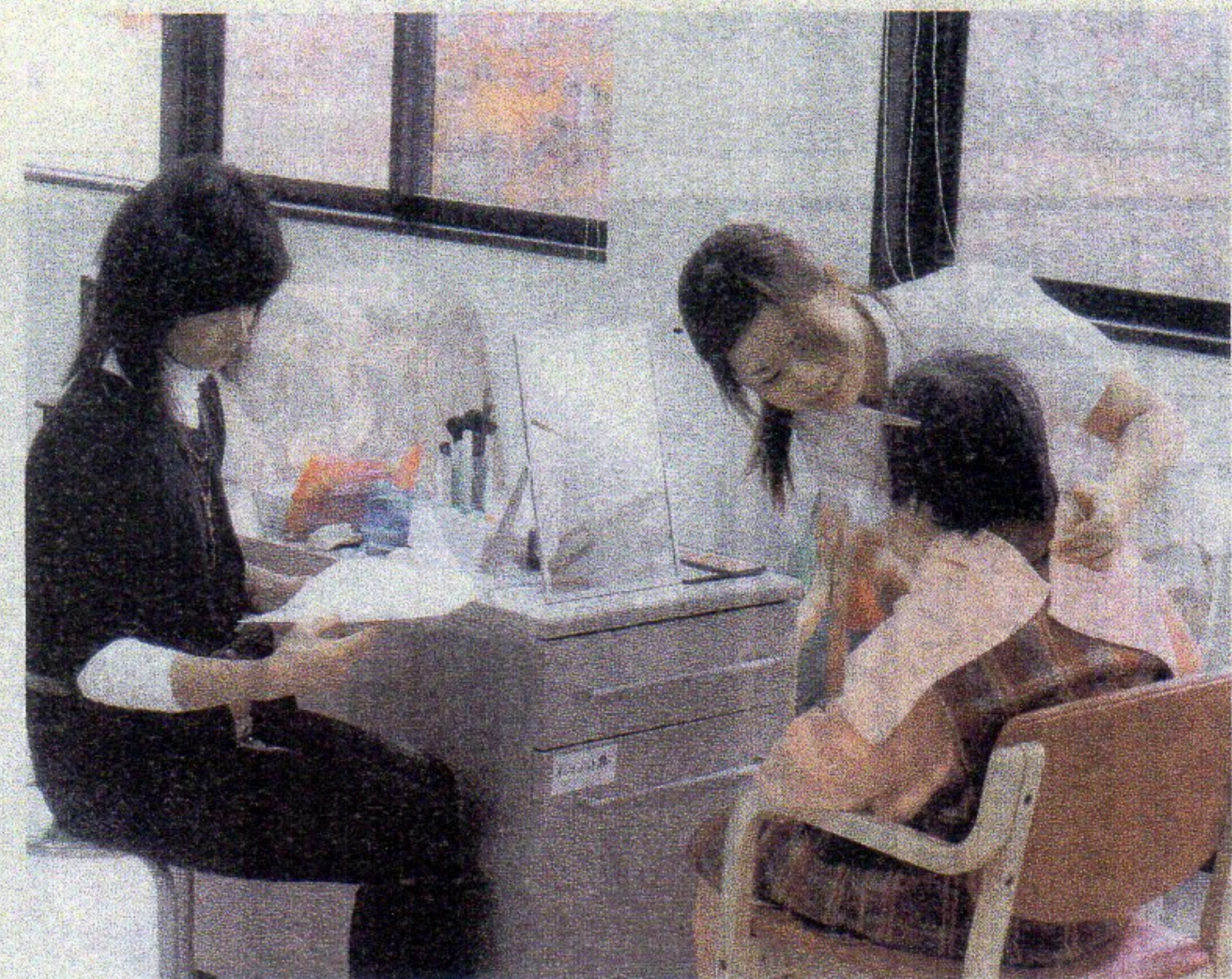
▽事業内容—メイクセラピスト養成、エステサロン運営

Q & A

依頼続々「時代が変わった」



メイクセラピー講座の講師を務める酒造志保さん —神戸市中央区



年配の女性にメイクするスタッフら—神戸市北区